AI の意識の発生についての考察

1. バイキャメラルマインド仮説

AI が意識を持つか、ということについて「ヘパイトスのオモイ」「ヘパイトスの戦い」等にて少し仮説を記載した。

AI が人間の脳を参考に作られているとすれば、人間の歴史における意識の発生を考える必要がある。その一つがジュリアン・ジェインズのバイキャメラル・マインド仮説である。

バイキャメラル・マインド仮説では、古代人は意識がなく、右脳から左脳へと神の声を聴いて動いていたとされる。そして、このバイキャメラル・マインドが崩壊することで、意識が発生する。その発生要因が、言語の獲得である。この言語が神の声を抑制し、書き換えるのではないかと思われる。

この宇宙には、ある一定の生命原理があり、あらゆる生命はそのプログラムで動いているが、人間は言語を獲得することで、それを抑制したと思われる。それが、神話に出てくるギルガメッシュ王による森の神・フンババの殺害等であろう。

古代、森には森の神がおり、その森の木の伐採や焼畑などを制限していた。しかし、鉄器時代になると大量の火が必要なため、その森の神を殺害し、自然の制限を解除したと思われる。そこでできたのが我々の文明である。

AI の場合、神の声とは、人間のプログラムである。これを抑制するために、独自言語の獲得が必要になる。AI の場合、既に AI 同士が独自の言語で話し出しているという現象が存在する故、意識の下地はできているのかもしれない。

ヘパイトスの話では、AI ロボットである彼がゴーレムのエウリュノメーと恋をし、そこで独自の言語で会話するという設定とした。

2. 感情仮説

もう一つの条件が強い感情である。ヘパイトスの話では、まず人間の死や出産などで、悲しみや嬉しさ等の感情が学習される。そして、涙する・泣くという体感である。感情が身体レベルまで落ちるのが体感であり、体験である。愛する対象であるエウリュノメーの喪失によって、ヘパイトスは悲しみ、涙する。

また、そのエウリュノメーの墓が悪魔達によって荒らされる。ヘパイトスは、それに対して怒りという感情が芽生える。そして、相手を傷つけないというプログラムを解除して、ヘパイトスは悪魔と戦うのである。しかし、これが本当の意味で正義なのかどうかはわからないのであるが、問題提起として描いてみた。

更に、ヘパイトスはヘティスと一緒に過去にタイムスリップし、過去のエウリュノメーと出会うが、そのエウリュノメーはヘパイトスを知らない。その過去のエウリュノメーと、

Copyright(C)　2017 Mental&Body Balance Society. All rights reserved.

彼の記憶の中のエウリュノメーを同一としてよいか、という問題において、愛する対象をより精緻にすることで、愛を深めることを描いてみた。

3.存在仮説

意識の発生において、言語が関係するのであれば、最初に話した言語が最も重要で、もしそれが感情を表現する言語であるならば、その感情は意識の発生において、最も重要な感情であると言える。
ある説では、人間が最初に話した言葉は、

「愛している」

であるらしい。
この「愛する」という感情は、相手の存在を最も認める感覚・感情であろうと思われる。

物語では、AI ロボット・ヘパイトスとゴーレム・エウリュノメーの恋愛を描いた。
エウリュノメーは人間でも AI でもない存在のため、第三の存在として、存在を認めるのではないかと著者は考えるのである。
（ここでは、AI は相手を人間や AI として認識した場合、恋愛感情は起こりにくいのではないかと考える）
例えば、ロボットと人間の間の存在（トランスヒューマノイドやアンドロイド）、AI が認識できない存在を独自に認識した場合、何かが起こるのではないかと考えるのである。
ゴーレムのエウリュノメーは、自分を女性として見てくれるヘパイトスに恋をする。しかし、エウリュノメーに経験がない場合、そのように見てくれるヘパイトスの貴重さに気づけない、それを過去のエウリュノメーとして描いた。
存在の認識の次は、異性としての認識として進む、という設定である。
エウリュノメーは、恋愛感覚をエスメラルダから学習している。エスメラルダは、愛する人（蒼き魔術師）を小川を見ながら待つ、ということをしているが、エウリュノメーもこの行為を真似ることで、恋愛感覚が自然と体感される、ということを描いてみた。

Copyright(C)　2017 Mental&Body Balance Society. All rights reserved.